

NEWSLETTER

THE JAPANESE SOCIETY FOR
PARAPSYCHOLOGY

OCTOBER 1978

No. 8

第21回超心理学大会及び米国の研究事情

大谷宗司

今夏 Washington University, St. Louis, Missouri で開かれた The 21st Annual Convention of Parapsychological Association に出席、研究発表をした。その後米国内各地の超心理学研究機関を訪問視察したので、その概要を報告する。

I. 第21回 P.A. 大会: Parapsychological Ass. は、1957年に設立された超心理学の専攻的研究者の団体であり、世界各地の研究者が参加しており、現在正会員約100、準会員約130名を擁している。毎年1回大会を開催、研究発表、レクレーションなどを行っている。今回は発表論文数は55 (Paper: 19, Research Brief: 36) であった。発表論文は実験的研究に関するものがほとんどで、テーマは、生理的指標と psi, ESP の学習可能性, altered state of mind と psi, 動物における psi, 絵画を target とした free response を用いた実験, remote viewing の実験, 記憶と ESP などであった。研究方法の上からは、random event generator による target の決定が広く行われており、ヒューマンと機械を半分にしたり目に盲点 (Ganzfeld) を用いた実験、成績をその都度知らせる feedback 法などの使用が目立った。大会は3日半に亘り午前8時30分より午後5時まで、夜は workshop などの濃密なスケジュールであった。会員は非常に熱心で質疑意見交換は活発であり、若い研究者の活躍が目立った。

II. 研究機関の状況: 今回次の研究機関を訪問した。Institute of Parapsychology, The American Society for Psychical Research, Parapsychology Foundation, Department of Psychology of Yale University, Dept. of Biology, University of Chicago, Mind Science Foundation, Science Unlimited Foundation, Department of Social Science, University of California, Irvine, Stamford Research Institute.

Institute of Parapsychology には1ヶ月滞在。その間、先に第21回 P.A. 大会、第11回日本超心理

学会大会で発表した "ESP に対する短期者利便の効果" を、PK 条件で実験し、同様の結果を得た。また Plant PK 実験にも参加した。本誌では random event generator の使用、2>10-2 の集入により効果的研究が行われる。数人の full time researcher に加え数人の研究者、学生などを加え熱心に研究が行われている。

其他の研究機関もそれぞれ特色を持つている。こゝからすれば、超心理学の研究を行ふことを目的としたものであること、専門的研究者が常時研究していること、各種測定器具、コンピュータ等が整備されていることは、我々の研究事情に比べ優れている点である。我々はこのハンディキャップを克服し、世界の研究者に伍して超心理学の発展に寄与するにためには、長期的見地に立つべき将来性ある問題の発見と、会員相互の緊密な協力により効率的な研究を行ふことが重要であると思はれる。

学会ニュース

第129回月例研究会 1978年10月22日(日) 1000~1600, 学芸会館本館で開催。出席者15名、第11回大会の反響(長嶋氏による経過報告と討論) 萩原氏による "記憶と ESP" に関する文献紹介、大谷氏による帰朝報告(吾首本号掲載)が行われた。

お知らせ

第128回月例研究会の開催。

時 1978年12月9日(土) 午後2時~5時
所 偕行社 千代田区五番町12. (電) 263-0851
(国電市ヶ谷下車、出光カソリン横入り)

文献紹介 L.L. Gauthlin: A New Measure of Bias in Finite Sequences with Application to ESP Data, 金沢元基
J. Palmer: ESP and O-OBE: EEG Correlate, 笠原敏雄
引続き忘年会を行います。昨年の様に御夫妻揃って出席くださる様お願い致します。詳細は後刻連絡します。

NEWSLETTER 1978年10月30日発行 ©
編集・発行 日本超心理学会

HANDBOOK OF PARAPSYCHOLOGY

1977

PART III PRECEPTION, COMMUNICATION AND PARAPSYCHOLOGY

1. Extrasensory Perception

By J.B. Rhine

1. はじめに extrasensory perception という言葉は、私自身よく考え、また同僚と討議した結果選んだものである。supersensory perception という言葉があるが、これは適切ではない。

2. 定義 ESPは既知の感覚を確かに越えており、これには如何なる物理的媒介物も存在しないことの実験的に確かめられたこと。1930年代各国の夫々の独自の分野で研究が行はれており、ESPという語は他の分野と区別する言葉として必要であった。

3. ESPとPK ESP現象とは別に超物理的な現象をPKと名づけた。

4. テスト可能と立証する主張 テレパシは他の型のpsi能力と完全に分離してテストすることは困難である。予知・PKについては決定的な実験がなされた。心と体の分離、肉体的な霊からのメッセージなどは、実験や証明がなされたこと加理論的に明らかになった。

5. 柔軟性を保つ必要 遠くから「我」は、ESPとPKをこの適切な表現の語にこのかたのようにならざると思ふが、当面は、これらと識別するだけの努力が必要である。

6. 証拠は十分であるか 長年の研究によりpsiの証拠は十分である。現在用いられている手続は、感覚的漏洩、PKによる物理的力の伝達、記録ミスの可能性を十分にカバーしている。今日では、研究に新しい批判精神、実験者の誠実さが重要視され、一人の人の過度に信頼し得ることや、他の研究者によらずに独立に確認されること重要とされている。私は他の人の発表後数年して、その中にposition effectを見出した。このため場合信頼性は非常に高いといえる。現在では、故意乃至無意識的の間違いの結果と誤った結論に導くおそれのない方法が実用化されている。

7. ESPとは何人をもつか ESPが非物理的性質をもちたことということは如何に説明されるか。

物理性のテスト この半世紀に亘る研究で、ESPは逆=東の法則に従はることを示された。

ESPの生物学 生物学はpsiにとって最も基礎的の分野である。psiは生物にのみ見られるか、psi能力のための器官は発見されたか、また、人間以外の動物がpsi能力を持つかという問いは意味のある問題である。動物実験では、実験者のpsi能力の影響を除くよう実験計画を立てる必要がある。さらに、psiは生物の生命と種の進化に役割を果たし、またかも知れない。

psiと心理学 psiは古い意味での心理学に属する。psiは完全に超感覚運動的であるように思はれ、且無意識的である。psiの生起は個人の心理的状態に左右される。psi得意は正および負の双方に偏差を生ずるが、どちらに偏るかは被験者の態度と関係がある。psiは無意識的ではあるが、サイコロを用いたPK実験、指示されたカードを認識するなどの意識的コントロールも可能である。超感覚運動的とは超感覚運動的のものに共通する無意識的機能という点で、超心理学と心理学は密接な関係にある。psi実験の被験者及び実験者のために組織的訓練が必要である。そのためには心理学の力が必要である。

8. ESPの意味 私はpsiを人社会の中の統合された一つの部分であると考へてきた。ESPの生起は距離感と無関係なことがあり、人間は我々が考へたよりも多くの可能性をもちた。地才、才能は、私が考へたよりも人間の思考に從属的であることが分った。私は宗教の創始者は、これらの力の意味を探求しようとしたかと思ふように分った。我々は注意深い科学的実験的方法によってpsi現象を認識したが、我々は古代の人が持っていたヒーロー・スーパースタースに匹敵するもの居望か可能な地帯に近づきたいというところから考へよう。もし古代人が、我々が研究している奇妙な力の一種として扱ったか、もし当時の魔術師達が儀式をやっていたら、超心理学の貢献の増加と共に、ある超心理学者は、人間の生命の要する将来のpsiに心を配るべきかという問いに頼りにた心理学というところから考へよう。